

ナツメ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌



122 号

2015 年 12 月 1 日発行号

創設 40 周年記念を開催しました！！

本会、1975 年から数えますと創設 40 年となりました。めでたいです！！

活動報告

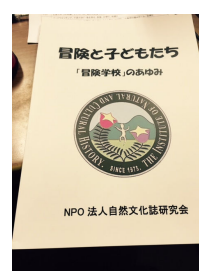
その 1 「40 周年記念企画 第 35 回環境学習セミナー」報告

自然文化誌研究会創設者の木俣先生と冒険探検部創設者の塚原東吾さんに講演をいただきました。また、現在活動の拠点となっている小菅村の亀井雄次さんからも基調講演をいただきました。その他、各時代の動きについて、各時代に動いていたメンバーから昔話を交えて歴史をつないでいきました。夜はみんなもちろん大宴会！参加してくれたメンバーには、冒険学校秩父時代の参加者をはじめ、現在のサークルちえのわのメンバーまで多く集まってくれました。



また、40 周年に伴い、長年の悲願であった（編集に 10 年以上掛かってしまいました）、「冒険と子どもたち～冒険学校のあゆみ」も発行することができました。

また、「成合基金」を数十年ぶりに復活を決めまして、様々な緊急時に向けての蓄えとしていきます。



植物と人々の博物館 VOL.18、小菅村の動き VOL.17 はお休みだ！！

「こすげ冒険学校」の取りまとめは間に合わず、次号にて、すみません～(><)

その2 INCH まつり〜「INCH ライブときのごキャンズ」 報告 10.11

40 周年記念の翌日、INCH まつりの開催です。きのこ組は雨の中、朝の 6 時から松姫峠へ向かっています。昨夜、大宴会をした船木民宿を片付けつつ、キャンプ場で音響や会場づくりなど、INCH ライブの準備を進めていきます。そして、きのこ採り、INCH ライブ、バーテンダーのひでやんによるバー、ということで夜遅くまで賑やかに進んでいきます。10 月 11 日大いに盛り上がりましたが寒かった！そしてきのこは、この週は村内のどこも具合が悪かったようです。（事務局）

ギター持参で来てくれた山中進さん→



その3 「第36回環境学習セミナー〜小菅村の明日を探る」 報告

4 名の先生方に講演をいただきました。

- ・源流の郷小菅村より、佐藤英敏小菅村教育長
- ・トランジションタウン活動と藤野の例を、小山宮佳江さん（NPO 法人トランジション・ジャパン共同代表）
- ・「日本で最も美しい村」連合が目指す地域社会の未来を杉一浩さん（「日本で最も美しい村」連合常務理事）
- ・地方消滅論の再検討を山下祐介さん（首都大学准教授）



どの方のお話も時間が足りないぐらいであり、もっとお話を聞きたかったという声がありました。企画・運営を小菅村ミュージアム研究会の皆さんと進めてきました。



翌日は、小菅村を楽しんでいただくため、橋立地区の木下新造さんにこんにゃくづくりのお話を伺いました。案内人は、地域おこし協力隊後も小菅村に定住している岡本亮太さんをお願いしました。（事務局）

懇親会では、小菅村食生活推進改善委員会の皆様に、小菅村の料理を作ってもらっていただきました。



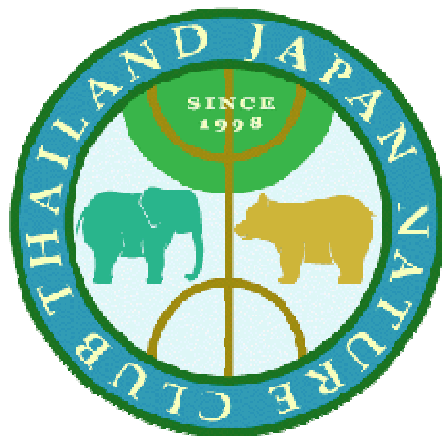
「タイ環境学習キャンプ」特集～はじまってから 20 年

本会の「タイ環境学習キャンプ」は20年続いている活動であるが、第2回目から一緒に活動を共にしているバンコク在住の若林卓司さんが、彼が書き溜めた随筆のようなものを、最近見せてくれるようになった。なかなか面白く興味深い。私だけで楽しむのはもったいないしタイキャンプの様子もわかるので、若林さんの承諾を得てこの「ナマステ」に連載を組むことにした。何を掲載するのかは、まったく私の判断である。とりあえず我々の活動がわかるものから順不同ではあるが掲載していくことにする。文中の写真等も編集者の故意による。

編集 中込 卓男

ソイの奥から 2010

若林 卓司



←中込貴芳 デザインによるT・Jクラブ ロゴマーク。「象・熊クラブ」の愛称もある。

このクラブが発足してどのくらいになるのだろうか。ウタイタニーでの活動は日本側だけのものになってしまっているが、それが今年で5年目である。それ以外にウタイタニーには2回行っている。さらにさかのぼるとカオヤイで宿泊したのが3回、チェンマイが1回、私は初回とカンチャナブリーは参加していないので、これが全部とすれば今年で13年目になる。私は全くメモを取っていないし、記憶もはっきりしない。もともと、東京学芸大学の木俣先生とプラナコーンのラッタワン先生を中心にして生まれた環境教育を考える集まりだった。私はシリワット先生から電話をもらって、2回目から通訳として参加した。最初はタイ側が用意した環境教育のプログラムに沿って、あちこちを見学した。そのプログラムはとても関心を引く面白いものだった。マングローブ林あり、アンパワーでの椰子砂糖の作り方あり、ピライ先生のサイチョウ研究あり、チェンマイのドーイ・プイでのモン族と役人との自然資源をめぐる確執等、中身の濃いものだった。日本側もそれらの見学を基にして、教材を作ってきたこともあった。しかし、日本側には実地活動をしたい要望があった。このグループの日本側を引っ張ってきたのは二人の中込さん。なかごみとなかごめの二人である。この二人以外は旅行気分のほうが強く、個人的な事情があるのだろう、連続してタイにくる人はほとんどいなかった。それでも最近は永井さんがこの二人に加わろうとして、頼もしい限りではあるが・・・。



▲マングローブ林 植樹もした



▲カオヤイ国立公園で 自作のサイチョウの教材

ある時、木俣先生がウタイタニーである人と出会い、意気投合したという。それがきっかけで、T・Jクラブがウタイタニーに行くようになった。そして、その人とは私がプラナコーンで日本語を教えていた時、よく一緒にキャンプや探鳥に行ったシリポンさんだった。シリポンさんは当時奥さんとともにフーワイカーケーンにあるWWFに勤めていた。しかし、その1年ほど後で、WWFは不況のあおりを受けてウタイタニーを徹底した。シリポンさんは将来のことを見据えて、自分で環境教育の拠点を作りたいと思っていたという。それがパンダキャンプに発展する。今、日本側はタイにあればプラナコーンの先生方と親しく挨拶をする間柄であるが、その大半をウタイタニーで過ごす。初めて、パンダキャンプで地元の先生や学生に行ったワークショップは好評だった。そして、毎回、先生や学生の関心を引く取り組みを行っている。今年の8月に行われた取組では簡単な水質調査の方法を化学的、生物的に行った。確かに、日本では小学校でもする内容ではある。しかし、地元では道具も知識もないのである。この取組は年に1回ではあるが何か確実に地元の人に待たれる存在になってきていると思う。地道な活動であるが続いてほしいものである。

(若林卓司『ソイの奥から2010』より掲載)

▼パンダキャンプでのワークショップ

若林さんご夫妻。右が奥さんのポンティーブさん。▼

若林さんは通訳。毎回大きな汗をかかせている。

ちなみにトラは中込ごめ(着せられた・・・)



2015「タイ環境学習キャンプ」報告

今回キャンプに同行した、若林先生の教え子のニックネーム ビア君に書いてもらった原稿です。

私は8月9日から14日までナコンナーヨックにあるパンダキャンプへ行きました。そこには木で造られた住宅があってキャンプの周りには色々な木が植えてあります。とても涼しいところでした。また、トッケイ(トカゲ)、蜚、蠍までもいました。これらは首都バンコクではなかなか見られない生き物ですから、見るとなんとなくワクワクしました。蠍は初めて見ました。蜚は初めて見たのはまだ小さかった頃で、遠くから見ましたが、今回は近くで見ました。蜚のお尻から光がピカピカ出ていて可愛い生き物だと思いました。私は蜚を一匹捕まえて日本人の友達にあげましたが、あげた後で、あることに気づきました。それは小さかった頃には蜚はいっぱいいましたが、今はすごく少ないこと。そして、数少ない蜚を捕まえて大丈夫かなと思って、友達に蜚を自然に戻すよう言いたかったのですが、友達と会ってまだ2、3日だったから、言わない方がいいと思って、言わなかったです。しかし、観察のためなら大丈夫だと思いました。

このキャンプで良かったことはこれだけではありません。色々な自然のハーブや首都にない野菜などで作られた料理を食べることもできました。料理はバンコクと同じ種類ですが、味が違いました。なぜかは分かりませんが、もしかしたら地方の野菜の方が新鮮か、料理を作った人が上手だったからかもしれません。美味しかったです。おまけに、ハーブは体にすごくいいです。

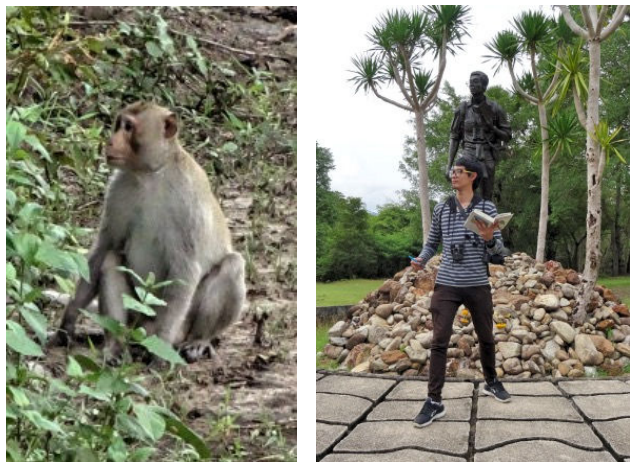


また、このキャンプの近くにある村の人々はみんな優しくて、住みやすいと感じました。その村へ行くと皆さんに大歓迎してもらいました。市場にはいろいろな店があってみんな笑顔で商品を買っていて、もうすぐ母の日なので、音楽会もやっていました。品物はだいたい自然のものでした。お水さえハーブから作られていました。首都と比べると、雰囲気は全く違いました。

私たちは、バーンライ郡だけではなく、有名な野生動物保護区フワイカーケンにも行きました。そこでは、色々な野生動物が見られたし、珍しい鳥、虫、大きい動物もありました。ある観察塔から、自然の中で生活している色々な動物を望遠鏡で見ました。新しい経験ができましたが、残念なことに、5-6種類の動物しか見られませんでした。普段はもっと現れるそうです。

次の日は山に登りました。途中で、友達とサイチウやお花を見たりしました。頂上には、休憩場所みたいな所があったので、休憩して、遠く広い森や、山の景色を見て、記念に日本人とタイ人の皆さんと一緒に写真を撮りました。山を降りる途中では、珍しいことがありました。道にトラの足跡があったのです。大きさは私の手くらいでした。皆さんは本物のトラが見られなくて残念そうでした。とともに、運が良かったと思いました。それから、お花畑みたいな所へ行くと、池があって綺麗でした。蝶々がここに集まってヒラヒラ飛んでいました。また、有名な自然保護活動家。スー・ナカサティアンが使っていた官舎も訪問できました。すごく感動しました。なぜなら、こんなに美しく大きな

森がまだ残っているのは、スーブ・ナカサティアンのおかげだからです。官舎の前に置いてある机の上に大きな本がありました。その本に、訪問者の感謝の気持ちがいっぱい書いてありました。私と友達も書きました。



また、この野生動物保護区では、色々な動物や虫がいました。例えば、動物のウンチが好きな虫です。この虫がなんなのか詳しく分かりませんが、私の友達は興味深そうでした。どうやら、ウンチを食べている虫のようです。また、マカモンというピーナツがありました。マカモンは世界で一番大きいピーナツだそうです。皮は3、4層だったので、食べにくい食べ物だと思いました。



この冒険はまだ終わりません。私たちは、パンダキャンプに戻ってカレンの村を訪問しました。すごい知識を得ることができました。どんな知識かというと、田舎での生活の仕方です。ハーブの知識や、キノコのこと、自然で採れる植物を材料とした体にいい料理の作り方、食べられるキノコと食べられないキノコとの区別の仕方も習得できました。しかし、カレンのお宅は

開放的な家で、トイレも清潔ではなくて、不便なところでした。カレンの人はすごいと思いました。また、パンダキャンプの近くにあるお寺と織物のお店へ行きました。それに、人生で、初めて洞窟に入るという経験をしました。そこは、暗くて、ほとんど何も見えないところでした。コウモリがいっぱい飛んでいました。9種類もいるそうです。私はそこで一番たくさん見たのはカエルコウモリです。止まっている時、カエルの姿をするので、カエルコウモリと呼ばれているそうです。



最後に、今回の旅で日本人とタイ人の皆さんに素晴らしい経験をさせていただき感謝しています。今年で、今回の旅ほどいい経験はないと思っています。一番感動したところはフワイカーケンですが、また、したかったことがあります。まだ行っていないビックツリーという所へ行きたかったのです。花、動物ももっと観察したかったのです。今度機会があればぜひ行きたいです。まだ書き足りないことがいっぱいあります。パンダキャンプでワークショップしたことや、皆さんの優しさのことや、美しいお寺など。だらだら書きましたが、内容が長過ぎて読みにくく分かりにくくなったかもしれません。そのことが心配です。でも、今回の経験は私にとってとても素晴らしいものだったということを皆さんにお伝えしたかったのです。

キエッティサック クラセーチョン



■ 活動案内 ■

『第 12 回 NPO法人 自然文化誌研究会 通常総会』のご案内

2004 年に東京都の認証を受けてから、第 12 回目の総会を行います。正会員の皆様はぜひご出席ください。また出欠を同封のハガキでお知らせ下さい。このハガキは欠席の場合は委任状となっております。ご意見などもお気軽にお寄せください。なお、正会員以外の会員の皆様もオブザーバー参加が可能です。

日時:2016 年 2 月 20 日(土) 15:00 開始～16:30 終了予定

場所:小菅村 植物と人々の博物館(小菅村中央公民館)

* 自家用車でお越しいただくか、JR 奥多摩駅から西東京バス「小菅行き」に乗り、「小菅村役場前」で下車。

* 詳細は事務局まで電話かメールにてお尋ね下さい。

議題: ①2015 年活動報告 ②2015 年収支報告 ③2016 年活動計画
④2016 年収支予算 ⑤その他 よろしく願いいたします。

正会員の皆さまには、出欠・委任状のハガキを送らせていただきました。出欠席をぜひ、事務局まで教えてくださいませ!!

その 1 「冒険学校 まふゆのキャンプ」 12.26～28(2泊3日)

毎年恒例の冒険学校「まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか?

小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、お正月の準備を見に行ったり、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。

焚火・薪割り・ドラム缶風呂・ナイトハイク・星空観察・アウトドア料理・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あふれるスタッフがみなさんの参加を待ってます。

日 程:12 月 26 日(土)～28 日(月)

場 所:小菅村のいつものキャンプ場

宿 泊:テントまたは野宿またはログハウス

集 合:12 月 26 日 JR 青梅線奥多摩駅午前

解 散:12 月 28 日 JR 青梅線奥多摩駅午後

対 象:小学校 3 年生～中学校 3 年生

定 員:25 名先着順です。

参加費:会員 ¥21,000 非会員 ¥23,000

(奥多摩駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などが含まれます)

申込み:ハガキ・もしくは E-mail に住所・氏名・年齢(学年)・性別・電話番号を記入の上、お急ぎで事務局まで参加をお伝えください。



寒空の朝、バードウォッチング!

ぎりぎりまで、参加申し込みをお待ちしています!!

その2 のびと講座「小菅村での味噌づくり」 3.12~13(1泊2日)

毎年恒例、手づくりの味噌づくりです。小菅村の大豆を煮るところからはじめて、杵で搗いて大豆をすり潰していく、昔ながらの味噌づくりを行います。麴は、はるちゃんの実家の手づくりの麴です。1泊2日ゆっくりと昔からの味噌づくりをしませんか？

みんなで仕込んだ味噌は、1年ほど寝かして完成した後に、参加者の皆様にお届けします。

味噌を仕込みながら、そば打ちも行いますよ～。



2 日目が本番。臼と杵で大豆をすり潰し続けます。

＊参加希望者は、ハガキか E-mail に住所・氏名・

年齢(学年)・性別・電話番号を記入の上、3月7日(月)までに事務局まで参加をお伝えください。

日 程：2016 年 3 月 12 日(土)～13 日(日)

場 所：小菅村のキャンプ場か民家

宿 泊：ログハウスで寝袋でみんなで寝ます。

※宿泊施設ご希望の方はご相談ください。

定 員： 15 名

参加費：会員：6,000 円 非会員：9,000 円

(材料費、宿泊、食費、保険代が含まれています)



そば打ちを守屋アキ子さんに教わります～。

『藤農便り』 第3号

農業生産法人 藤野倶楽部

宮本 透(自然文化誌研究会)

6 月に「百笑マルシェ」が始まってから、2 日おきに安心農園で野菜を収穫・袋詰めして、スーパーまづばに納める生活が続いています。30 数年前木俣研に入る時、木俣師から「植物を育てる仕事をするなら、毎日圃場に出なさい」との尊い教示をいただきました。学大卒業後は植物を育てる仕事に就いたものの、社会から外れた人生を歩んで藤野倶楽部にたどり着きましたが、この教えだけは忠実に守っています。

10 月 10 日の自然文化誌研究会冒険探検部創設 40 周年記念「第 35 回環境学習セミナー」は社長に「絶

対参加させてください」と無理を言って、3 連休で忙しいレストラン営業日に休みをとりました。朝食を済ますと安心農園に寄らず小菅へ向かいました。佐藤さん・塚原君をはじめ懐かしい仲間と久しぶりに再会、草創期のメンバーは皆おじさん・おばさん、自分の子どもより若い現役部員、冒険学校参加の小学生は立派な大人になっていて、40 年の歴史を改めて感じました。帰路、多数の参加者が藤野倶楽部にお寄りくださったこと、紙上にて厚く御礼申し上げます。前置きが長くなりましたが、今回は藤野での出会いを紹介します。

・カフェてくてく

藤野倶楽部に入社してから 1 ヶ月ほど、昼食はコンビニかスーパーまつばの弁当を食べていました。コンビニ弁当のおかずは油物が多く食傷気味だった時、目に付いたのが「焙煎コーヒーと手作りパン」の看板のある「カフェてくてく」でした。地元の木材で造られたやさしい建物の中に入ると、コーヒーや焼きたてのパンのこうばしい香りが心地よく、心身にハンディを持ったスタッフがかいがいしく働いていました。メニューも豊富で、週替りの温かいランチや様々なピザなどを食べることができます。さらに素敵なことは、BGM に私の大好きなアニメソングが流されているのです。すっかりファンになり、今ではランチとコーヒーでお腹を満たし、おやつと朝食用のパンを購入する常連客になっています。

昼食時の店内は混み合って、地域のたくさんの人と相席になります。トランジション藤野やパーマカルチャーセンタージャパンのスタッフ、シュタイナー学園保護者や観光協会職員等、知らない人と顔なじみになっていくことも楽しみの一つになっています。縁もゆかりも無い藤野に移住してきた私にとって、皆さんからいただく様々な情報は仕事に役立つことも多く、感謝しています。

障害児教育を志し学大入学時に養護学校教育専攻だった私は、大学で教わる障害児と健常児を分ける教育に疑問を持ち、授業に出るのをやめて留年しました。地域に根ざし、心身にハンディを持った人と健常者が当たり前のように集う「てくてく」に在ると、留年・転科というほろ苦い思い出が癒される気がします。

・つくいやさい

「つくいやさい」は農薬・化学肥料・除草剤不使用にこだわる津久井地区の農家が、地域の消費者とお互いの顔が見える関係を大切にしながら、自分たちの

育てた安全な野菜を消費者に届けるグループです。6 月からスタートしましたが、きっかけは「百笑マルシェ」と同じく、お百姓クラブの石山さん・末村さんたちがまとめた「相模湖・藤野地産地消アンケート」だそうです。地域の食べ物は、地域で育てて、地域で食べることが当たり前になるような取り組みの始まり、トランジション藤野の行動力はすばらしいものです。

毎月第 2・4 金曜日、千木良の古民家に各農家が丹精込めて育てた野菜を持ち寄り、ビニール袋をなるべく使わず、リサイクルできる野菜ケースに詰め込んで地区ごとに振り分けます。時間にして数十分の作業ですが野菜作りの苦労話に花が咲き、種の選び方・育苗や定植時期・管理作業や収穫期等、私にとって津久井の農業を直接学ぶ貴重な場になっています。おまかせ野菜 BOX は 1 セット悪税込みで 2000 円、各メンバーが 8 箇所のポストに運び消費者に届けています。

試行錯誤が続きますが、農協祭り等のイベントへの参加、消費者との交流会企画等、農家同士の横のつながりを強める取り組みが始まった事も楽しみです。

藤野倶楽部では展示「雑穀街道」を道の駅こすげから引き継いで行っています。来年は安心農園で雑穀栽培が始まります。寒い冬がやってきますが、久しぶりに雑穀のことを勉強したいと思います。

おまかせ野菜 BOX→



『INCH の楽しい仲間たち』 vol.7 その5

『冒険探検粉塵記

第5話 人生を旅に過ごす』

駄作者

文福洞先斗

ポンちゃんは肌の感光性がよく、すぐにコンガリと日焼けするので、子どもの頃、クロンボと呼ばれていじめられました。クロンボというのは新大陸の黒人奴隷や暗黒大陸のアフリカの先住民を差別する表現です。まだ敗戦直後のことだったが、アフリカ系アメリカ人を差別することで、日本人であるポンちゃんを二重に差別したのです。もっとも、中学生になってちょっと学校の成績が良くなったら、酋長に昇格しました。だから、ポンちゃんは差別と偏見に敏感で、とても嫌いなのです。シュバイツァー博士のようにアフリカに行って、地域の人々とともにボランティアで働きたいと志を立てたのは、差別と偏見への強い反感であったのかもしれませんが。一方、長ずるに及んで、海外調査に出かけるようになると、小麦色の肌と容貌ゆえに、それぞれの国々の人々になじみ、ありがたいことに親しく付き合ってもらえて、調査はしやすく、また、観光地でも土産を買えとか強要されず、危険な目にも余り合わないで済みました。フィールド研究者としてはありがたい肌色の形質であったのです。

人生は良く旅に例えられます。偉大な宗教者も芸術家も、フィールド研究者も、旅を重ねて思想や作品を深め、高めていった人は少なからずいます。臆病なポンちゃんは晩生でもあり、子どもの頃は近場で遊んでいました。大学生の後半になってやっと、阪本寧男に弟子入りしてからは、国内外で雑穀調査に従事するようになりました。(本文中、尊敬する諸先輩に敬称を付けず、自分にちゃん付けをしてすみません)

さて、先日、第35回環境学習セミナー「学大探検部の40周年記念」でお話することで、ポンちゃんの冒険・探検とは何かを振り返って考えてみました。次表は冒険・探検の内容分類を示しています(『自然と文化』第5号、1985)。この表にはさらに「開発援助」と「教育・学習」を加えることにしたいと思います。

冒険探検の目的内容

冒険／探検は人生の道草

目的らしいものの分類

- ・ 経済 金儲けの種探し
- ・ 軍事 戦争の手伝い
- ・ 学術 調査、研究材料を探す
- ・ 宗教 布教、修行、経典を探す
- ・ スポーツ 心身の楽しみ
- ・ 観光 物見遊山
- ・ その他 なんとなく放浪



- ・ 開発援助 経済、軍事、宗教などほとんどを多角的に含む
- ・ 教育・学習 地理、歴史、自然など、環境学習 (写真：ナガ族のお姉さんとヒマラヤ)

厳密に言えば、冒険と探検とは主目的が異なりますが、本来、冒険・探検は個人の内発的意思で行われるのであって、外発的に権力者に強制されて行うことは好みに合いません。自らが苦勞してこそ、達成した時に心身の充足があります。金儲けの経済、植民支配の軍事に関わる探検は外圧によることで、宗教は内発的でもあるが、ある面では経済・軍事の手先にもなり得ます。なにせ、探検には旅費がかかりますので、どうしても有力者の支援を仰ぐことになり、癒着が起こります。他方で、学術やスポーツ、観光やなんとなくの目的意識は内発的な冒険・探検につながるのでしょうか。開発援助や教育・学習も、地域の人々や個人の内発性に対する支援、相互学習であってほしいのですが、外圧的な強要援助あるいは植民地経営につながる可能性もあります。

若いころの、ポンちゃんの冒険・探検の主目的は学術調査でユーラシア大陸を走り回りました。しかし、このところ自由な身の上になり、身の程をわきまえてヨーロッパの観光（物見遊山）に主目的が移りました。大聖堂、美術館、博物館、植物園、大学などを訪問して、本物の遺物や絵画などを見て、郷土料理や地酒を楽しんでいます。でも、昨今、世界が騒然としてきたので、観光旅行にさえも出にくくならないとよいがと、とても心配です。それでも若者たちは気を付けて冒険・探検の旅には出ましようよね。人生は旅の出会いによってさらに彩り豊かになります。

今、改めて『秘境ブータン』中尾佐助著を読み直しています。この中には、今西学派の面々が多く出てきます。今西錦司、桑原武夫、川喜田二郎、本多勝一（当時、学部生）らである。戦争前後のこの時代には、まだ地理的空白地帯、秘境があり、とてもわくわくするような探検旅行記です。本多勝一は日本での大学探検部の草創期の人なので、ジャーナリストとして膨大な著述がある中でも、ぜひ、『ニューギニア高地人』、『アラビア遊牧民』などは読んでいただきたいと思います。巻末の解説は中尾佐助と桑原武夫が書いており、冒険探検について意見を述べています。一度、15周年シンポジウムの際に、本多勝一に講演依頼したが、残念ながら諸般の事情で実現しませんでした。かれは、ポンちゃんの先生の先生である木原均を慕って大学を移籍したそうです。

第35回環境学習セミナーの発表を聞いて、学大自然文化誌研究会冒険探検部（学大探検部）は「すごい」活動実績を蓄積してきたと、ポンちゃんが関係当事者でなければ、自画自賛ではなく、本当に手放しで賛美したでしょう。特に日本とタイでの冒険学校の継続は素晴らしい経験の蓄積です。昨今、名利を求めて、猜疑保身を図り、口先ばかりの世間であって、ひたすら地道、寡黙に実行してきたから、地域住民・協力者の信頼を得てきたのだと思います。

ポンちゃんは直情的で、すぐに感情を顔に出すし、頑固一徹で直進する、すなわち、大学院生の頃は指導教官の花田毅一先生に無闇に突検するがむしゃらな猪武者だと酷評され、環境教育学会を創った頃は谷口文章先生に猪突猛進の重戦車だ、と言われました。あるいはおっしゃる通りで、子どもっぽく突っ走って周囲の人たちをたくさん傷つけていたのかもしれませんが。しかし、ポンちゃん自身は人の意見をよく聞いた上で、判断と責任を自分で取ってきたのだと思っています。

ひるがえって、自然文化誌研究会 INCH の人々は名利を求めず、行為がゆっくりで、時として温厚さがもどかしくて仕方がないのです。でも、重戦車の猪突猛進の緩和・中和剤として、活動の結末のソフトランディングを助けてくださったのでしょうか。学大探検部40年を振り返ってみて、彼らと終生の友人として過ごせて、とても感謝しています。環境学習セミナーには30名ほど、翌日の INCH 祭りライブにも30名ほどが参加したようです。旅をして、キャンプで同じ釜の飯を食べたメンバーに、久しぶりに会えてご同慶に堪えません。やっと印刷され、幻に終わらなかった『冒険と子どもたち』を一読して、本会がさらに冒険・探検活動を展開して、50周年を迎えられることが確信できました。

この2回は、ちょっと真面目な文体になりましたが、次からは元に戻します。 (2015-10-17)

○ 今後の活動予定のお知らせ (2015 年冬～2016 年春)

- 12/12-13 のびと講座『星空観望会』 @小菅村
 12/26-28 冒険学校『まふゆのキャンプ』 @小菅村
 2/20 第 12 回通常総会 @小菅村 植物と人々の博物館
 3/12-13 のびと講座『小菅村での味噌づくり』 @小菅村
 4/29 のびと講座『野草の天ぷらとお茶つみの会』 @東京学芸大学 環境教育研究センター
 5/3-5 冒険学校『むらまつりキャンプ』『植物と人々の博物館 展示・縁側講座』 @小菅村
 5/14(予定) 『第 18 回雑穀栽培講習会～雑穀の種まき』 @小菅村
 ※2 月 20 日の総会後に、年間予定が出ますので、よろしくお願いします。

○ 事務局より

●先月、宮崎県の諸塚村へ行ってきました。目的は諸塚村へ移住した田辺薫くん(さぶちゃん)に会うためです。塚くんも合流しました。皆、元気でした。10 月の 40 周年記念では、冒険探検部創設者の塚原東吾さんのお話も聞けまして、刺激になりました。家が完成してからちょうど 1 年。いろいろ出かけ始めています。 クロ

●朝は、ちょっと早めにエンジンをかけて、車のフロントガラスの霜を解かしてから出勤です。そろそろ路面も凍結するから気を付けて出勤します。 はるこ

○ 事務局の麗しき日々

- ・つつみは、結婚して福岡で小学校の先生になって立派でした。
- ・さぶちゃんは彼女に会いに、諸塚村から宮崎市へよく行っているもよう。
- ・まーしーは新潟県内の名酒「八海山」で働いているもよう。
- ・中津屋の進ちゃん(山中進さん)は、秩父市議会議員なもよう。
- ・ポータンのバシくん(石橋君)が結婚したという噂があるのだが。
- ・圭ちゃんは 40 周年記念の際「おじさんばっか・・・」と嘆いていた。

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH(インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座(のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額(1～12 月)です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員:10,000 円 一般会員:5,000 円

学生会員:3,000 円 賛助会員(個人・団体):10,000 円

家族会員:6,000 円 特別維持会員:100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員:3,000 円

小菅村特別会員:1 口 1,000 円から

成合基金(冒険探検基金):「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座 : 00100-2-665768

口座名 : 特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 122 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2015 年 12 月 1 日

<編 集>自然文化誌研究会 事務局

<発 行>特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL : 0428-87-0165・090-3334-5328(事務局黒澤)

E-mail: npo-inch@wine.plala.or.jp

H P : <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局ブログ: <http://npoinch.naturum.ne.jp/>